

## 図 書 紹 介

バイオダイバーシティ・シリーズ4

### 菌類・細菌・ウイルスの多様性と系統

岩槻邦男・馬渡峻輔監修、杉山純多編集（株式会社テクノスルガNCIMB）

発行： 裳華房 / 〒102-0081 東京都千代田区四番町8 - 1 / 03-3262-9166 /

B5判 / 486頁 / 価格 7140円（税別） / 2005年11月20日

この地球には多種多様な微生物が生息している。細菌、酵母、カビなど多くの微生物の機能は、生物学的にも多様性著しく、20～21世紀のバイオテクノロジーが一大発展を遂げるようになり環境及び健康被害に期待される微生物でもある。そうしたさまざまな顔を持つ微生物について本書は、生物多様性研究や系統分類学の視点から微生物の世界を平易に紹介している。

本書は5部構成で486ページからなっているが、本文の前ページとして本書に多くの専門用語が記載されていることからそれを理解する「本書を読むにあたって」として専門語、分類体系、分類学名、さらに和名を解説を加えている。また、さすがに分類の世界である。口絵のカラーページにすばらしい形態写真を取り入れ、こと細かく解説を加えているのである。

さて、各部の解説にはいることとする。

第 部は総論で、微生物としての細菌と菌類の機能的・構造的プロフィールから大きな系統関係まで、系統研究の発展を跡づけながら概説している。

第 部は多様性と系統・進化に注目しながら、菌類多様性を八つの章に分け、特に4章では、生活環からみた多様性をまとめ最新の知見を概説した内容となっている。

第 部では、菌類の特徴や主要な分類をまとめ生活環と形態をまとめ、生物学的特徴を可能な限り最新情報を収載し体系的に紹介している。

第 部は、細菌系統分類の知見を、原核生物の分子系統・生態進化や生命の初期進化時代に関する最新の仮説などを紹介している。

第 部はウイルスの多様性と系統として、ウイルス学の最新の進歩を踏まえ、ウイルスの特性・構造・分類・進化などを解説している。

巻末に分類表として菌類、細菌、ウイルスをまとめ、さらに広義の菌類分類表については形態レベルによる分類にも配慮し、分子系統学的知見を体系化して示した。

今まで生物多様性の研究の現状が包括的に提示されたことはない。そこでここに刊行することとなったこのバイオダイバーシティ・シリーズは、生物多様性に関する最新の知見を集大成し、この分野における生物学発展に寄与するこ

とを目的としている。

本シリーズは、生物多様性にかかわるすべての人に必要な理論と情報を提供するために、広範囲の研究分野から第一線の研究者の協力を得て編まれるものである。編集者の杉山純多氏はこの書の菌類を担当しており、大学時代から現在まで長年にわたり系統分類、進化などを研究された第一線の研究者であり、今でも日本菌学会の中心的存在として活躍されている。

そうした他の2名の第一線研究者と執筆された書である。基礎的な研究を推進する糧となると同時に、生物多様性の持続的な利用に資する情報源となることも期待され、研究の指針として是非活用していただきたい書籍でもある。

(国立医薬品食品衛生研究所 高鳥 浩介)